

年間第6主日の説教

金 大烈 神父 2009年2月15日(日)

《清くなれ》

お元気ですか？

今日の福音(マルコ 1・40-45)をもう一度読み返しましょう。

『清くなれ』というイエス様の言葉に目が止まります。清くなれって、どういうことでしょうか？もっと答えやすく質問します。「皆様は清くなりたい心を持っていますか？」 『清くなる』ということがどういう事が皆さんわかります。清くなりたいという気持ちになる為には前提条件があります。それは汚れている自分を認めることです。汚れがあることを自ら分かることです。そして、その汚れから清くなりたい心が自然に生じる事です。

信仰の道は私達が死ぬまで清くなりたい気持ちを持って歩むことかも知れません。どうしても私達は汚れてしまいます。体はしようがないですが、なによりも靈魂、魂、心の事です。私たちは何があっても奪われてはいけない事をいろいろな欲や無駄な感情によって奪われて汚れてしまいます。守らなくてはいけない心を失う場合がよくあります。

しかしそれがっかりしているだけでは何も意味がありません。やはりそこで希望を持って立ち上がらなくてはいけないのです。その希望の為に清められなくてはなりません。清くなりたいと言う強い心を持ち、自分の弱さを認めながら歩まなくてはならないのです。

日本では御聖体を頂く前に、まず司祭が「あなたの食卓に招かれた者は幸い」と唱えると信者は「主よ、あなたを置いて誰の所に行きましょうか。」と答えます。しかし、伝統的なローマカトリックの典礼では「一言おっしゃって下さい、私の魂が直ぐ癒されます」と答えます。これが正式な典礼の祈りです。日本の典礼も近いうちに代わる予定で今その作業をしていると聞きました。

この「一言おっしゃって下さい、私の魂が癒されます。」すごい祈りです。信仰です。私達はどうしても日々の生活などで汚れ、汚くなります。しかし心はきれいになりたい、清くなりたいと望みます。その時どうか「一言おっしゃって下さい。私が清められます。」この祈りこそ信仰ではありませんか。皆様、いろいろ難しさはあります。しかし絶対忘れないで下さい。そして“清められたい”、神様が創造して下さった所へ戻りたいという気持ちを絶対失わないで下さい。

ありがとうございました。